

# 上海レポート

令和5年5月号

Vol. 33



公益財団法人大阪産業局上海代表処（大阪府上海事務所）

中国上海市延安西路2201 上海国際貿易中心408室 200336 Email osaka@ibo-sh.com.cn  
TEL 86-21-6270-1901 FAX 86-21-6270-1351 https://osaka-sh.com.cn

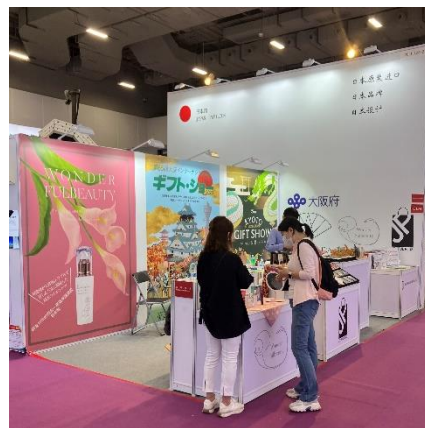
20230508号	交易で繋がる中国と世界	副所長 小森亮人
20230515号	1本98元の食パンの魔力	秘書 孫芸
20230522号	2023 中国国際消費電子博覧会	所長 南浦秀史
20230529号	灰色の壁と猫の街	副所長 小森亮人

## 交易で繋がる中国と世界

現在の中国では上海を始め各都市で大規模な国際展示会が開催されていますが、これらの中で最も長い歴史を持つのが中国南部の広州市で毎年春と秋に開催される中国輸出入商品交易会（広州交易会）です。1957年に始まった本交易会は、新型コロナウイルスの影響に見舞われた期間もオンラインを組み合わせ開催を継続し、今年4月に開催された第133回では3年ぶりにリアルでの商談が全面再開されました。閉幕後の発表によると、出展企業約3万5千社、来場者290万人超と過去最高を記録、216億ドルを超える輸出成約がなされたとのこと。

ゼロコロナ政策緩和後の大規模な国際見本市となった本交易会は、約150万平米の会場が生活雑貨、化粧品など商品毎にエリア分けされ、各区域は無数の企業ブースで埋め尽くされていました。会場内は220超の国・地域から参加したバイヤーが行き交い、貿易を通じた世界と中国との結びつきの大きさを実感する空間となっていました。各ブースでは活発に商談が行われており、国内外の様々なニーズに対応する中国企業の層の厚さ、製品の多様さにも改めて驚かされることとなりました。

今回の交易会は大阪府上海事務所（大阪産業局上海代表処）もブースを設置し、府内の企業に出展していただきました。本ブースには主に中国国内のバイヤーが来場し、日本製という点に高い関心を示しながら商品の背景などを詳しく質問する様子が印象的でした。消費、製造の市場として存在感をますます高める中国と世界とを結びつける本交易会の役割は、今後も更に大きくなっていきそうです。



---

## 1 本 98 元の食パンの魔力

---

日本の食パン専門店「銀座に志かわ」が、5月5日に上海で正式にオープンしました。6時間待ちの行列警察が出動して店内の秩序が保たれました。

値段は一本98元（約1960円）ですが、転売屋が1本300元（約6000円）で販売しました。さて、1本98元の食パンの魅力は何でしょうか？

まず、立地ですが、店がオープンした場所は上海の淮海中路の香港広場沿いです。この地域は転売屋が必ず訪れる場所で、ベーカリーブランドが初出店に好む場所です。食パン1本98元という値段は高いと感じる人が多いと思いますが、なぜかこの地では、その値段は妥当だと感じられました。

銀座に志かわの中国1号店は、パン作りに50年以上携わってきた職人を招き、パン職人が毎日行うプロセスを来店客に紹介します。また、匠の技をアピールすることで、この食パンの「価値」を高めていきます。職人技という点だけでなく、彼らはこの食パンを販売したあともおいしく食べてもらいたいため、食パンの保存方法まで教えます。そういう小さなことを丁寧に行うことで消費者に超越的な価値を認めてもらうことができました。

中国で1種類のパンしか売っていないパン店は珍しいですが、食パンのみしか作っていない銀座に志かわは多くの“趣味人”を惹きつけました。立地や職人技のパフォーマンスや価格から分かるように、銀座に志かわの売るターゲットは高級消費者層です。上海はすでに高級パン店の激戦区となっています。この群雄割拠する中に入っていき「銀座に志かわは」が、この“魔法”を生み出し続けられるのかを見てみたいと思います。



---

## 2023 中国国際消費電子博覧会

---

山東省の青島市で開催された中国国際消費電子博覧会に参加しました。家電関係のハード・ソフト双方のPRを目的としたこの博覧会は、今年で20年になります。

中国で電気関係の集積地と言えば広東省の深センのイメージですが、山東省の青島は、洗濯機を中心に白物家電が有名なハイアール、黒物とくに液晶テレビが有名なハイセンス、調理家電や冷蔵庫、冷凍庫が得意なオークマなど、中国国内はもちろんのこと、世界的にも有名になった家電企業が本社を構えています。また、すぐ隣の山東省イ坊市に本社を構えるゴアテックは、かつてはアップルのイヤフォンのOEMを手掛けていたことで有名で、いまはイヤフォン、ヘッドフォン、スマートウォッチなどのOEM製造に徹しているユニークな企業です。

展示は、ハイセンスは東芝の映像事業を買収した企業だけあって、液晶テレビのみならず、非常に綺麗で大画面のプロジェクタテレビなどが印象的でした。ハイアールは、イタリアの家電ブランドを買収し、欧州と中国での高級市場向け優れたデザインの製品を多く展示していました。オークマは冷蔵庫や冷凍庫を中心に、キッチンで使われる調理家電、冷蔵ショーケースの無人販売機など、アイデアあふれる製品が特徴的でした。

以前は、安かろう、悪かろうのイメージが強かった中国企業の電気製品ですが、今は、洗練されたデザインでよい品質の製品を市場に送り出しています。



---

## 灰色の壁と猫の街

---

上海の街並みを上から俯瞰すると、高層ビルが立ち並ぶ中に所々瓦屋根の低層住宅が密集する区画があることに気づきます。このような区内の建物は石庫門と呼ばれ、かつては上海のごくありふれた街並みを形作っていました。市内の開発に伴いその多くが取り壊されてしまいましたが、住民が住み続けている区域も市内に点在し、かつての上海の面影を今に伝えています。

しかしながら、その多くも既に再開発が予定され、住民には政府から代替の住宅や補償金を提示した上での立ち退きが促されています。住民が去った建物は一階が灰色に塗り込められ時間が止まったかのような街並みとなっていました。5月に開催されたバンド・アート・フェスティバルではその灰色の壁に無数の猫の写真やイラストが描かれ、多くの来訪者で賑わいました。この猫達には「さようなら、猫の街！」「忘れないでね」などの台詞が添えられ、可愛らしさの中にこの街並みがやがては失われることを思い起こさせる展示空間となっていました。

住民でない私達の目からは、古き良き上海と思えるこのような光景が失われてゆくことに、どこか寂しさを覚えます。一方でこれら古い家々は水回りや衛生面などの問題が多く、居住に適した環境とは言えなくなっている現状もあるようです。また、住民と政府の間で補償の水準の折り合いがつかず移転が進まない状態も各所で発生しているほか、再開発のあり方についても様々に議論がなされており、状況は非常に複雑です。変化の早い現在の上海でこれらの地域がどうなってゆくか、今後も見守りたいと思います

